

■ 令和2年度 秋葉区自治協議会かわら版（25号）「あきはくはつものがたり」

夏目秋葉区長、金子自治協議会長対談

日時：令和2年7月3日（金）10時から

場所：秋葉区役所3階区長室

■ 新型コロナウイルス感染症の影響

（会 長）

今日は、よろしく願います。

（区 長）

よろしく願います。

（会 長）

このように改まって話すのは初めてで、どのような話から始めればいいのかと思っていたのですが、今、世界各地で課題になっている新型コロナウイルス感染症の影響です。目に見えない形でどんどん進行しているというのは私もとても感じているところですが、まずは、それを少しでも見えるようにしたいということで、自治協議会委員の中でアンケートを取って、どのような点に危機感を持っているか、どのような対策が可能かという意見を交換してみたのです。それをご覧になっていただいたご感想や、秋葉区にどのような影響を及ぼしているかというところで、区長のお考えがありましたらお聞かせいただけるとありがたいです。

（区 長）

新型コロナウイルス感染症に関してはいろいろな報道の仕方があって、世界や日本国内においての傾向や影響の状況などをよく拝見するのですが、それが地域や各個人の家庭生活においてどのように動いているかということがなかなか見えにくいです。それで、秋葉区自治協議会といういろいろな分野の方々が結集いただいている協議会において、このように細かな意見交換や状況報告がされているのは大変ありがたいものだと思います。

（会 長）

これはある種の自然災害ですので、そういうときは必ずこれまで予期しなかったような問題がどこかで起きているのではないかと私たちも心配しています。

私たちが集めたアンケートの中で声として一番大きかったのが、もっと区民の声をしっかり聞くべきではないか、困っている人の声を集めるべきではないか、という意見です。できることからなのですが、秋葉区の住民が気軽に自分の状況や世の中に対する思いなど

を集められるような意見箱のようなものを、自治協議会として置けるところに設置していこうということを考えております。そういうところで集まった声をまとめて区長の耳にも入れさせていただきたいと思いますので、ぜひ、そのようなことも参考にしながらまちづくりを進めていただければと思います。

(区 長)

ありがとうございます。

(会 長)

コロナ禍というものが私たちに投げかけているものは、感染症の予防とかそういう表面的な話だけではなくて、根本的なまちづくりに対する投げかけもたくさんもらっているような気がしています。都市部、特に東京ですが、非常にこういうリスクに弱いのではないかということをととても実感しました。ひょっとすると、地方だからこそこういう状態でも危機に強いところがあるのではないかと思っています。

特に、「アキハスムプロジェクト」ということで、秋葉区は移住の促進にも熱心に取り組んでいるところだと思います。ある意味、これがまちづくりの一つの転換期にもなるのではないかと感じているのですが、その辺はいかがでしょうか。

(区 長)

最初に災害というお話がありましたけれども、災害というのは本来、面的なもので、しかも、災害が起きた場所にいる人にも影響があるものです。それが広く救援も含めて全国的な影響というようになっていくのでしょうかけれども、この新型コロナウイルス感染症は一人一人の心と体に対する災害ではないかと思えますし、また、それが一人で生活されている場合と集団で生活されている社会というものでは影響の度合いも違うわけです。おっしゃるように、秋葉区における地域の密度と申しますか、人口密度もそうですし、地域社会のあり方という点での密度もあろうかと思えます。そういう点では、東京のように密ではない秋葉区くらいの規模の状況の中でのあり方というものが今後、示されるのではないかと思っています。

今、一義的に全国緊急事態宣言というものがあって、それは一旦終わったわけです。また第2波、第3波が懸念されている中で、今現在、新潟市内においては入院患者がゼロになったという状況もあって、これからの立ち上がりのあり方によっては、東京のように大きな次の波が来ることなく、また、経済もうまく回していきながら付き合っていけるような時代になっていくのではないかという気がしています。

(会 長)

本当にそうですね。秋葉区はもともとさまざまな魅力、いいところがあふれている地域だ

と思うのですけれども、それがこの危機によってより浮き彫りにされたのではないかと私は感じています。

#### ■ 秋葉区の魅力

(会 長)

話を少し明るい方向に持っていきますと、区長は、秋葉区の魅力というと、どういうところが一番ですか。

(区 長)

やはり、適度な自然と、また政令指定都市としての便利さ、どこからでもアクセスしやすい、こちらからも行きやすいというほどよさがあると思います。新潟県全体、特に新潟平野は平坦な風景ではないですか。それが秋葉区であれば、少し視点を上げると緑が目に入って垂直方向の景色もある。これは非常に特徴的なものですし、心豊か、やすらぎを与えるよい環境にある場所だと思います。

(会 長)

新潟市は田園型政令指定都市ということが一番の売り文句にしていると思うのですけれども、それを体現したような、凝縮したようなものが秋葉区ですよ。

実は、私はIターン組で、今、13年目に突入しているところです。本当に一目見たときから、ここはかなり私の理想として探していた地域に近いなと感じました。それまで引っ越しばかり繰り返してきた人間が何と12年も居着いてしまった。これは相当魅力があるということなのかなと、自分の行動から感じているところです。

区長は、そもそもご出身は。

(区 長)

出身は新発田市です。社会人になる前の一番長い時期を過ごしました。小中高校は新発田市です。

(会 長)

今、秋葉区の区長をされていますけれども、お住まいも秋葉区にあるのですよね。

(区 長)

そうです。住んでいます。

(会 長)

住んでみて、一個人としていかがですか。

(区 長)

雰囲気がいいです。新潟市も合併によって随分広くなりましたから、新潟市の中心部から

感じるのと秋葉区に住んで感じることは、全く違うものがあります。

(会 長)

新潟市内に住んでいる時間は私も長いのですが、やはり秋葉区には特別なものを感じています。

#### ■ 秋葉区のまちづくりに関する考え方

(会 長)

そこで、区長に就任されて1年と少したちましたけれども、秋葉区のまちづくりに関して、力を入れたい部分がありましたら、ぜひ、教えていただきたいと思います。

(区 長)

八つの区があって、共通するものも非常に多いのですが、秋葉区は独特のものが際立って多いと思います。先ほど言った自然環境、里山の風景もありますけれども、歴史と文化に裏付けられた、新津の町を中心にしてかなり古くから開発されてきて、ほどよく田園も広がっていて、大変バランスがいいと思います。それを伸ばしていくのはもちろんですが、中でも、ほかにまったくない魅力というものがやはり鉄道だと思いますし、石油であったり花であったり、それを彩る多くのものがあります。

通常、インバウンドといって外から観光客などの交流人口を受け入れて、それを含めて経済を回していく、宿泊を求めるような形での訴求があると思いますが、秋葉区の場合はそれがかなわないものもあって、日帰り型かもしれないのですが、ここに来たときに周遊できるような町だと思いますので、中心街をはじめとしてそれらを全部有機的につなげていくような町になっていけばいいなと思います。

(会 長)

まさしく、歴史あり自然あり田園もあり、花の町です。あと、極めつきが鉄道という、全国に誇る。

(区 長)

これはマニアが多いので。

(会 長)

そうですね。本当に、多分、秋葉区民が想像する以上に鉄道ファンからは注目されているのではないかと感じています。その辺りも、ぜひ、住んでいる私たちもしっかり意識して、共通の誇りにしていきたいものですね。

(区 長)

そうですね。

(会 長)

まち歩きなども最近は盛んに行われて、ガイドグループもありますけれども、そういう方々にこれからも大いに活躍していただいて、いわゆる着地型の観光というのでしょうか、そういったところで交流人口が増えていけばいいのではないかと私も思っています。そのためには、区長が今おっしゃったとおり、つなげていくことですよね。

(区 長)

そうですね。

(会 長)

いろいろな資源をつなげるような人財の発掘や、ソフト、プログラムの開発といったことも大事になってきます。遊びに来ました、いいところだと分かりました、実は、住むのもいいところだと分かりました、住むのもサポートが意外と手厚いので現実的な選択肢として考えてみたくなりました、という一連の流れをいかに作れるかということがカギなのではないかと思っています。

(区 長)

移住モデル地区も設定されていて、実際、空き家物件や、住むことができそうな物件があらかた埋まっているという話もいただいたりしておりますので、さらにそういう発掘ができればいいなと思います。

(会 長)

私は仕事で東京の大学に通っているのですがけれども、首都圏の街頭の大型ビジョンで「アキハスムプロジェクト」のとても格好いい広告を見たことがあって、力が入っているなど感じていました。実際に成果も出ているのですよね。実は社会増が多い町だということ。

(区 長)

はい。新潟県の中で、市町村と新潟市の八つの区で、社会増が実現できるのは三つか四つくらいしかないのではないのでしょうか。

(会 長)

本当に素晴らしいことだなと思います。できれば、少し泊まれるところなどもあると一番いいのでしょうか。

(区 長)

そうなのですよね。新津は鉄道の要衝、分岐点でしたから、いわゆる旅籠というか駅前旅館が多くあったようですけれども、それが一旦終わってしまって、新潟市のビジネスホテルに吸収されているのが実態だと思います。

(会 長)

実は、旅籠というスタイルが今、全国的に宿泊の業態として注目されています。いつの間にか日本の宿泊施設は、遊びに来るとその中で全部完結してしまって町には出ないで、満足したのかしないのか次の日にもう帰ってしまって、そんな観光スタイルになりつつあるのですけれども、そうではなくて、町をじっくり楽しみながら滞在できるというのが今、新しい観光スタイルとして注目されているところなのです。旅籠の復活はいかがですか。

(区 長)

言い方を変えるとゲストハウスみたいなものかもしれませんけれども、ホテルだったりすると宿泊施設から出さないということがとても大事だと思うのですけれども、ちょっと飲みに出てくるからというくらいのほうが、町の中での動きが見えていいのではないかと思います。

(会 長)

いいですね。そもそも町に魅力がなければ観光客も引きつけられないわけですし、ホテルだけで町は成り立たないわけですし、そういう意味では、町全体の宿泊を伴う観光というものも一つの方向性になると、秋葉区の場合は大いに可能性があるのではないかと感じています。客車ホテルみたいなものも、いろいろな方が案として長らく温めているものだと思うのですけれども。

(区 長)

そうですね。私は客車ホテルもいいですし、鉄道居酒屋ができればいいなと思っているのです。缶ビールと駅弁と、缶詰でもいいのです。ただ、マスターが駅員の帽子を被っているというようなものも、雰囲気があるといいなと思っています。

(会 長)

区長、個人のビジネスとしていかがですか。

(区 長)

退職後に向けて貯金したいと思えますけれども。

(会 長)

そうですね、ぜひ。私もねらっているのですけれども、ちょっと今忙しすぎて。

(区 長)

貯金だけではなくて、居酒屋の中に飾るコレクションも集めなければいけないから、けっこう大変だと思います。

(会 長)

そうですね。思わぬ投資が。しかし、区長が一声かければ寄附が集まるのではないですか。

(区 長)

鉄道資料館から借りるとか。

(会 長)

そのようなことも将来的な夢として、ぜひ、温めていきたいと思います。

(区 長)

楽しいですね。

## ■ これからの「地域」のあり方

(会 長)

この先、ますます可能性がある秋葉区だと思うのですが、奇しくも新型コロナウイルス感染症によって新しい時代の扉が強制的に開かれているような感じがするのです。それはもちろん、バーチャルの世界とかウェブの中の世界が急速に広がって、どこからでもどの地域の情報を見ることができたり、つながったりできるようになっていく時代になってきました。会議や仕事などもネットでできるような時代になってきて、本当にこれまでにないような仕事がこれから先どんどん生まれてくるのではないかと感じています。本当に向こう数年とかではなくて、10年、20年先をイメージしたときに、秋葉区がこんな町になったらいいなという、遠い先の夢みたいなものを、もし区長がお持ちだったらお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(区 長)

インターネットが普及するようになってから20年以上たっているわけです。それによって世界がどこでもつながりあえるような世の中になりましたけれども、それでもなお、場所によっては一極集中であったり、極端な過疎が進んだりということもありますし、高齢化もあって、社会のあり方は依然としていびつだと思えます。ただ、ここ数年、これから数年ということではなくて、さらにその先を見据えていったときに、今回の新型コロナウイルス感染症によって大きく考え方が変わってきたわけです。そうすると、このネット社会を最大限に生かして、また持続可能なものにしていくということが期待されるとすると、秋葉区でゆっくり自然の中に浸かりながら生活し、そして、ボタンを押すと、そこにはどこに住んでいる人同士でもお互いにつながり合えるような環境が、しかも画面の上だけではなくて、部屋全体がそういう雰囲気になってその場所にいるような感覚で仕事ができたり、会議などでつながり合えたり、飲み会なども最近リモート飲み会というものが始まりましたけれども、今まで考えもしなかったような概念が出てきて、それが評価されるという世の中がこれからあるのではないかと思っています。その分、買い物の、地域における小さなお店がなくなっていったりという傾向は今もありますし、この先、ネット通販といったものがさらに進むのか

もしれないですけども、いつか突然逆転するのではないかといつも思っていて、地方であればあるほど、そこで生活することや仕事をするのが価値を生むのではないかと思うのです。中心がずっと中心であり続けることはありえないですし、必ずしもその必然もないと。今中心でないところが突然、時代の中心に出てくるということもありえるのです。南極が世界の首都になるとは思いませんけれども、しかし、そういった中で、秋葉区のようなところがさらに注目を集めていく可能性があると思っています。

(会 長)

本当ですね。まさに価値観が転換していく、ずっと時代が変わりつつあるといわれてきているんですけども、私も今度こそ本当に何か変わるような気がしています。

実際、数字を見てみると、首都圏に住む方々が地方に移住したいというものは年々上がってきているのです。特に、コロナ禍以降は急速に上がっているという現状があるそうです。ところが、現状は、実際に移住した人というのはむしろ減っているような感じで、一極集中が加速しているのです。これは不思議な現象だなということで研究者の間でもずっといわれていたんですけども、やはり、意識では補えないくらいの利便性の重視みたいなもの、効率重視とか経済重視みたいなものの力が働いていたと思うのですけれども、いよいよそれも変わってくるのではないかと。まさに今が大逆転の前夜なのではないかという気がしています。

例えば、高齢化率は地方のほうが高いのですが、実は、圧倒的な高齢者の人口を抱えているのは首都圏ですし、問題としては首都圏のほうが大きなものを抱えているわけです。ところが、都会では高齢化というものが問題になったとしても、地方に来ると意外と吸収できる余力があったりということも実際にあるので、その辺りは逆にメリットになるのではないかと。お年寄りも安心して暮らせるという地方のあり方も一つのメリットになるのではないかとということかもしれないです。

あと、私のこだわりとして、これから大事になってくるのは、やはり女性の活躍なのではないかと思います。女性に選ばれる町なのではないかと。実は、熊倉前区長もその辺りは非常に同意してくださっていたのですけれども、女性が住みたいと思う町にこそ未来があるということは当然だと思うのですけれども、そのための条件なども秋葉区は非常にいいほうなのではないかと思います。その点はいかがですか。

(区 長)

女性が意外と世の中を決めているのではないかと思います。動かしているというか。もちろん、社会進出が進んでいるということもありますけれども、結局、男性陣も女性がオーケーしないとその先に進めないわけです。秋葉区の場合は、Akiha 女子という取り組みもすでに

あって、切り口を掴みやすい町なのではないかという気がします。何かしたときにリアルに反応が期待できる、活動のしがいがあるというところではないでしょうか。

(会 長)

そうですね。女性と子ども。もちろん、男性にもご活躍いただきたいのですが、これまで、どちらかというともちづくりという意味では活躍の場が限られていた女性にもっともっと活躍していただくというところが一つのポイントだと思っています。

あとは、ますますリモートで仕事ができる時代になりましたので、そこで起業してくれる人たちが町の中にたくさん出てくると、魅力的なまちになるかなと思っています。ありがとうございます。

それでは、最後に、区長からぜひ、一言いただければと思います。

(区 長)

6月末に自治協議会を始めていただいて、区の中で大きな会議としてとらえているものの最初の会合であったように思います。もちろん、民間団体でも動かれているところはあると思いますけれども、そこで、短い言葉で皆さんに伝えたかったのは、やはり元気を出していきましょうということです。「秋葉区げんき！宣言」をこれからもしていきたいと思っています。元気を出して、それを広く発信して、多くの人を元気づける秋葉区でありたいと思っていますので、ご賛同いただければありがたいです。

(会 長)

力強いメッセージ、ありがとうございました。ぜひ、「秋葉区げんき！宣言」、これを大いに浸透させて、ますます元気な秋葉区になっていくように、一緒に頑張りましょう。

(区 長)

会長、よろしくお願ひします。

(会 長)

今日は、本当にありがとうございました。